

対談／乗越議員、大江議員が聞く

# 介護の現場

表紙写真／話をお聞きした皆さん

今回は、介護の現場で働く皆さんに、インタビューをしてきました。

介護を取り巻く環境や、介護政策に対する思い、介護に取り組む姿勢や今後について、お話をお聞きしました。

## プロフィール



桜が丘保養園  
高齢者相談センター  
ケアマネージャー  
伊東 富美子さん



みずほヘルパー  
ステーション  
ホームヘルパー  
舛本 智恵子さん



御園寮  
生活相談員  
益田 義徳さん



黒瀬コスモス園  
ケアマネージャー  
児玉 篤英さん



新生園  
介護職員  
田中 美穂さん

最後まで自分らしく生きること。そのお手伝いを  
させていただくことが、私たちの喜びです。

Q 仕事や職場の魅力を教えてください。

伊東 相談を受けるなかで、高齢者の方とつながりができたり、民生委員さんや住民自治協議会の方など、いろいろな方と関係

ができることがとても魅力だと思っています。

益田 特別養護老人ホームは利用者さんの「終の棲家」みたいなもので、人生における最晩年の生活にかかわらせてもらえる

ことが喜びです。また、利用者さんや家族に感謝されることで励みにもなります。

Q 仕事をする上で苦労することは何ですか。

舛本 現場で働いているときは

苦労と思ったことはありませんでした。ただ、介護保険が始まった平成12年から、高齢者を訪問した時に、制度上できなくなつた事を理解できるまでは、辛くて大変でした。

益田 どうしても介護度が高い利用者さんとのコミュニケーションはとれにくいと感じています。介護する側が本人の意向を想像することでしか支援できないという葛藤があります。



1. インタビューを受ける介護の現場で働く皆さん
2. 自治会長さんからの相談を受ける高齢者相談センター
3. 介護保険制度の枠を越えて実施した交流活動（在宅の集い）。写真は、利用者さんと一緒に酒蔵地区を訪れた際のもの。
- 4、5. 利用者さんとの会話風景

**Q** 高齢者福祉サービスにおいて、制度的に不都合を感じることはありませんか。

**伊東** 高齢者制度には医療介護か、高齢者世帯か他の家族が同居かという線引きがあり、そのはざままで困っている人に直面すると、制度上の不都合を感じることがあります。

**児玉** 要支援・要介護の判定は出していないけど、少し体調が悪いといった、いわゆる予備群の方が実は多く、そういった方が介護に関心を持って、気軽に集まれる場所がもっと増えたらいいなと思います。

**田中** 国は施設を増やすのではなく、在宅介護に力を入れる方針です。これから先、入所希望の高齢者がさらに増えてくる中、どう対応するのが今後の課題だと思います。

**舛本** 同居される家族が一人でも、基本的に料理などの生活援助サービスは受けられません。高齢者夫婦で妻が認知症であっても、夫が自立であれば援助は

受けられず、夫は妻の介護をしながら料理をしなければいけない。もっと実態に合った運用ができる制度にしてほしい。

**Q** 最後に一言お願いします。

**舛本** いつも枠にはまった援助しかできないので、枠を越えて利用者さんとの交流活動を20年間ずっと続けています。費用はほとんど施設の負担ですが、梨狩りや動物園に行ったり、利用者さんに大変喜んでもらっています。このような事が介護保険制度の中であればありがたいと思います。

**田中** 介護の現場で働く職員の声を拾い上げてもらい、思いを吐き出す場を設けていただけたらありがたい。

**児玉** 第1次ベビーブームの方が75歳になる2025年が怖くて仕方ありません。このように広報誌で取り上げてもらえるのはありがたい。そのことで少しでも介護職を目指してくれる人が増えてくれればと切に思います。